

論文

高等学校における言語活動の研究 (2)
— リスニング活動の実態と展望 —

米津 明彦

日本福祉大学 国際福祉開発学部

小倉 美津夫

日本福祉大学 国際福祉開発学部

A Language Activity in a Senior High School Focused on Listening Activity
- Present Situation and Development -

Akihiko YONEZU

Faculty of International Welfare Development, Nihon Fukushi University

Mitsuo OGURA

Faculty of International Welfare Development, Nihon Fukushi University

Keywords : リスニング, 聞くこと, 学習指導要領, 高等学校, 授業, テスト

Abstract

The purpose of this paper is to examine the present situation of teaching listening in senior high schools and clarify the effective ways to improve it. The former part shows the result of questionnaires answered by senior high school teachers. It reveals that most of the teachers just let their students answer listening questions based on training books for the examinations within ten minutes approximately. They need new ideas to renew the ways of teaching listening.

The latter part explains that, due to the comparative difficulty of listening among four skills, the introduction of the listening strategies is needed in classrooms. In addition, three steps are necessary in listening activities to make them effective. Several useful techniques are followed as well, which could be references for teachers to revise their teaching ways.

1. はじめに

この論文の目的は、高等学校外国語科におけるリスニング指導の現状分析と効果的なリスニング指導について論じることである。本論考は2年間の研究の2年目に当たる。前論考『高等学校における言語活動の研究 (1)

リスニング活動の理論と実践』においては、高等学校ではあまり実践されていないリスニング指導への疑問を持ち、リスニングの定義、リスニングの困難点、リスニング指導の困難点という観点でリスニングについて再考した。課題として、現状のリスニング指導の多くはリス

ニングストラテジーを意識したものにはなっていないことや、リスニングテスト問題に対応するための指導に終始していることを挙げるとともに、英語によるコミュニケーション能力を養い高めていくために、4技能の重要な一つとして、学習到達目標を明確にしたリスニング指導へと変えていく必要があることを指摘した。

本論考では、高等学校現場でのリスニング指導の実態調査とその分析、高等学校におけるリスニング活動およびその指導の難しさ、そして、効果的なリスニング指導について扱うこととする。

2. リスニング指導の実態調査

平成29年6月に愛知県内の高等学校英語教員106人を対象としてアンケート調査(巻末資料を参照)を行った。この調査においては「リスニング指導」を、正規の授業内で何らかのリスニング教材を使用して、生徒のリスニング力を向上させる指導とした。授業内で使用している教科書の本文の予習がされている状況でのリスニング指導やシャドーイング等は除くこととして回答を求めた。学科ごとの回答者数は次のとおりである。

	人数
回答全体	106
普通科	82
工業科	6
商業科	6
総合学科	8
その他	4

2.1. 授業でリスニング指導を行っているか

「1. あなたのクラスにおいてリスニング指導を行っていますか。」という質問に対して、「イ リスニング教材を使用して毎回行っている」または「ウ リスニング教材を使用して時々行っている」と回答したのは全体の66%であった。普通科の場合は、約7割の教員がリスニング教材を使用した指導を行っている。

「ア 授業を英語で行っているので教員や生徒同士などの英語による発話を聞き取ることで済ませている」という回答は全体の21.7%であり、授業を英語で行うことが高等学校の授業に浸透していることを反映しているとも考えられる。しかし、「エ リスニング教材を使用していないし、リスニング指導を全く行っていない」とする回答が全体の12.3%となっていることから、授業内でリスニングを含めた4技能をバランスよく指導することができていない状況が考えられる。

1. あなたのクラスにおいてリスニング指導を行っていますか。				
	ア 授業を英語で行っているので教員や生徒同士などの英語による発話を聞き取ることで済ませている	イ リスニング教材を使用して毎回行っている	ウ リスニング教材を使用して時々行っている	エ リスニング教材を使用していないし、リスニング指導を全く行っていない
回答全体	21.7	15.1	50.9	12.3
普通科	19.5	17.1	54.9	8.5
工業科	50.0	16.7	16.7	16.7
商業科	50.0	0.0	33.3	16.7
総合学科	12.5	0.0	62.5	25.0
その他	0.0	25.0	25.0	50.0

2.2. リスニング指導をどのように行っているか

2.1の質問において「イ」または「ウ」と回答した、リスニング教材を使用して毎回または時々リスニング指導を行っている70人に対して、追加質問をした。

1) リスニング指導を授業のどの段階で、何分程度行っているか

「2. 2) リスニング指導はいつ行っていますか。」という質問に対しては、全体の約6割が「ア 授業の始め」に行うという回答であった。

2. 2) リスニング指導はいつ行っていますか。				
	ア 授業の始め	イ 授業の最中	ウ 授業の終わり	エ その他
回答全体	61.4	24.3	1.4	10.0
普通科	66.1	22.0	1.7	6.8
工業科	50.0	50.0	0.0	0.0
商業科	0.0	100.0	0.0	0.0
総合学科	60.0	0.0	0.0	40.0
その他	0.0	50.0	0.0	50.0

また、「2. 3) リスニング指導に何分費やしていますか。」という質問に対しては、回答全体の57.1%が「イ 約10分」としている。9割以上が約5分から15分までの時間をリスニング指導に費やしている。約10分の指導時間では、リスニング教材の問題を聞いて解答し、答え合わせをする以外の具体的な指導は難しいと考えられる。

2. 3) リスニング指導に何分費やしていますか。				
	ア 約5分	イ 約10分	ウ 約15分	エ その他
回答全体	18.6	57.1	18.6	7.1
普通科	16.9	62.7	15.3	6.8
工業科	0.0	50.0	50.0	0.0
商業科	50.0	50.0	0.0	0.0
総合学科	40.0	20.0	20.0	20.0
その他	0.0	0.0	100.0	0.0

2) どの科目で行っているか

「2. 4) リスニング指導はどの科目の時間に行っていますか。(複数回答可)」という質問については、科目間

で大きな違いはないが、「コミュニケーション英語」と「英語表現」でやや多く行われているという結果であった。

	2. 4) リスニング指導はどの科目の時間に行っていますか。(複数回答可)					
	ア コミュニケーション英語	イ コミュニケーション英語	ウ コミュニケーション英語	エ 英語表現	オ 英語表現	カ その他
回答全体	25.7	31.4	22.9	14.3	32.9	14.3
普通科	25.4	27.1	22.0	11.9	37.3	10.2
工業科	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
商業科	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0
総合学科	0.0	100.0	60.0	0.0	0.0	40.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

3) リスニング指導の具体的な方法はどのような

リスニング指導の方法について、「2. 6) リスニング指導の方法を具体的に書きください。」という質問に対しての記述を分類すると、次のようになった。

指導方法の分類	具体的記述例
1 リスニング教材の解答と答え合わせのみ	<ul style="list-style-type: none"> 授業の最初にリスニング教材を使い10分で実施 授業の最初にリスニング教材を使い15分で実施 授業の最初にリスニング教材を使い10分で実施。その後、スクリプトを読む時間をとり、スクリプトを見ながら聞かせる。
2 リスニング教材の解答と教師の解説	<ul style="list-style-type: none"> リスニング教材を使い、問題を解き、答え合わせ、簡単に解説。 聞き取り方を事前に指導し、何を聞き取るかを明確にして10分で実施。その後ディクテーションを5分行う。 聞くポイント（事前に設問に目を通すとか）を指示して、聞かせて、答え合わせして、解答を配る。 発音指導をしてエクササイズという流れです。30-40秒問題を読ませてから始めています。 速度調整した機能がついたオーディオを購入してもらい、使用している。×1.0で2回ほど、×0.5~0.9で速度を落として2回ほど聴き、（途中でヒントを出す）その後スクリプトを見ながら答え合わせ。
3 リスニング教材の解答・解説に加えて関連した活動	<ul style="list-style-type: none"> 10分問題 解答 リスニングのポイント key センテンスの暗記 書き取り 英作文 30分リスニング、5分答え合わせ、15分スクリプトをペアで音読、別日にディクテーション 各自取り組ませつつ、ペアでお互いに聞き取れた内容を共有、を2~3度繰り返す。その間、必要に応じて音声をゆっくり再生する。答え合わせをしつつ、単語や熟語を確認する。また、ディクテーションに近い形で細部を確認し、リンキングや音の違いについて解説する。 週1回授業の初めに10分ほどで実施、答え合わせをしたあとでスクリプトを見ながらもう一度聞く。必要な場面は音読をする。 授業の最初にリスニング教材を使い10分で実施。付属の「学習ノート」を使って家庭でディクテーションを中心とした復習を課している。 ワークブックのリスニングをさせ、解答。メモを取らせ、設問以外の内容も口頭で確認+ディクテーション。
4 独自のリスニング指導	<ul style="list-style-type: none"> (時々)教科書を読む前にCDを聞き、聞きとれた語を出し合う。内容を想像する。教科書の本文を穴うめにし、単語を入れる。 (本文の内容を知らない状態で)本文の内容を図示したサマリー内にある空欄をリスニング教材を聞いた上でうめる。5~10分で実施。

- Model dialog をリスニングでやっている。聞くメモ QA 単語リストを与えて音と意味をつなげる 聞く QA
- 最初に洋楽を聴かせ、Dictation をする (10分程度)
- 読み物をリスニング教材として使用。テキストを隠して聞いて、日本語の要約の空欄を埋めていく。

分類1の「リスニング教材の解答と答え合わせのみ」には「授業の最初にリスニング教材を使い10分で実施」など、具体的な実施方法が記されていない記述が多くあった。分類2の「リスニング教材の解答と教師の解説」については、事前に「何を聞き取るかを明確に」する指導や、「途中でヒントを出す」といった支援を挙げるものがあつた。

分類3の「リスニング教材の解答・解説に加えて関連した活動」については、「書き取り」「英作文」「ペアで音読」といった活動と組み合わせていることや、「家庭でディクテーションを中心とした復習を課している」のように家庭学習と関連付けることも挙げられた。「ディクテーションに近い形で細部を確認し、リンキングや音の違いについて解説する」といったリスニングの技術に踏み込んだ指導を挙げたものもあつた。分類4の「独自のリスニング指導」については、「洋楽」や「読み物」をリスニング教材として使用したり、「単語リストを与えて音と意味をつなげ」たりすることも挙げられた。

全体として、リスニング教材の手順に従って10分程度で解答・解説が行われていることが多い。具体的なリスニング技術やストラテジーを意識した方法を記述したものは少数であつた。

2.3. 定期テストにおいてリスニングテストを行っているか

「3. 1) 定期テストにおいてリスニングテストは行っていますか。」という質問に対して、「ア 行っている」という回答は、全体の約6割であつた。しかし、工業科、商業科、その他の学科では「イ 行っていない」という回答が上回つた。

	3. 1) 定期テストにおいてリスニングテストは行っていますか。	
	ア 行っている	イ 行っていない
回答全体	59.4	40.6
普通科	64.6	35.4
工業科	33.3	66.7
商業科	33.3	66.7
総合学科	75.0	25.0
その他	0.0	100.0

2.4. リスニングテストをどのように行っているか

2.3の質問に対して「ア 行っている」と回答した63人に対し、次の質問をした。

1) リスニングのテストをどの科目で行っているか

「4. 1) どの科目の中で行っていますか。(複数回答可)」という質問に対しては、次のような回答であった。2.2 2) のリスニングの指導を行った科目の数値とは一致しておらず、指導をしてもテストを行っていないことや、逆に指導を行わずにテストを実施していることもあると考えられる。

	4. 1) どの科目の中で行っていますか。(複数回答可)					
	ア コミュニケーション英語	イ コミュニケーション英語	ウ コミュニケーション英語	エ 英語表現	オ 英語表現	カ その他
回答全体	25.4	27.0	19.0	23.8	28.6	15.9
普通科	24.5	22.6	18.9	20.8	34.0	13.2
工業科	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
商業科	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0
総合学科	0.0	66.7	33.3	16.7	0.0	33.3

2) リスニングテストを年に何回行っているか

「4. 2) 年に何回実施していますか。」という質問に対しては、全体の7割以上が5回実施していると回答した。定期試験ごとに実施していることが伺える。

	4. 2) 年に何回実施していますか。					
	ア 1回	イ 2回	ウ 3回	エ 4回	オ 5回	カ その他
回答全体	0.0	1.6	3.2	12.7	73.0	7.9
普通科	0.0	1.9	1.9	13.2	73.6	7.5
工業科	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
商業科	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
総合学科	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	16.7

3) リスニングテストの配点はどのくらいか

「4. 3) リスニングテストの配点はどのくらいですか。(定期テストの満点値を100とした場合)」という質問に対しては、10%から20%までの配点としているという回答が8割を超えていた。

	4. 3) リスニングテストの配点はどのくらいですか。(定期テストの満点値を100とした場合)				
	ア 5%	イ 10%	ウ 15%	エ 20%	オ その他
回答全体	11.1	34.9	27.0	22.2	4.8
普通科	11.3	35.8	26.4	24.5	1.9
工業科	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
商業科	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
総合学科	0.0	33.3	33.3	16.7	16.7

4) リスニングテストのレベルを上げているか

「4. 5) 各学期段階を追ってレベルを上げていますか。」という問いに対しては、「ア 上げている」とする回答が「イ 各学期とも同レベル」を上回った。「ウ レベル

を意識せず」という回答が約15%であった。

	4. 5) 各学期段階を追ってレベルを上げていますか。		
	ア 上げている	イ 各学期とも同レベル	ウ レベルを意識せず
回答全体	42.9	39.7	15.9
普通科	49.1	34.0	15.1
工業科	0.0	100.0	0.0
商業科	0.0	100.0	0.0
総合学科	16.7	50.0	33.3

5) リスニングテストの問題形式について

「4. 6) リスニングテストの問題形式はどのようなものですか。(記述)」という質問に対する回答をまとめると、次のようであった。選択形式の問題を使用しているという回答が多く、空所補充や英問英答といった記述を求める形式は少なかった。

- | |
|--------------|
| 1 内容に関する選択問題 |
| 2 内容に関する正誤問題 |
| 3 ディクテーション |
| 4 空所補充問題 |
| 5 発音問題 |
| 6 英問英答 |
| 7 センター試験と同様 |

また、「4. 7) リスニングテストの問題文は授業で扱った教科書の文章を使用していますか。」という質問に対しては、「イ 使用していない」という回答が全体で7割を超えている。

	4. 7) リスニングテストの問題文は授業で扱った教科書の文章を使用していますか。	
	ア 使用している	イ 使用していない
回答全体	22.2	71.4
普通科	22.6	75.5
工業科	0.0	0.0
商業科	0.0	100.0
総合学科	33.3	50.0

6) CAN-DO リストにリスニングの目標が明示されているか

「4. 8) CAN-DO リストの中にリスニング(聞き取り)についての目標が明確に書かれていますか。」という質問に対しては、「イ 書かれていない」とする回答が全体の2割を超えている。各校ではCAN-DO リストを作成することになっているが、リスニングについての項目を含んでいないか、CAN-DO リストの記載と整合が欠けたテストが実施されていることが考えられる。

	4. 8) CAN-DO リストの中にリスニング (聞き取り) についての目標が明確に書かれていますか.	
	ア 書かれている	イ 書かれていない
回答全体	69.8	22.2
普通科	73.6	17.0
工業科	50.0	50.0
商業科	100.0	0.0
総合学科	33.3	66.7

7) リスニング力向上チェックテストを行っているか

「4. 9) 学期ごとにリスニング力向上チェックテスト等を行っていますか。」という質問に対しては、「ウ 実施していない」という回答が全体の約 8 割である。

	4. 9) 学期ごとにリスニング力向上チェックテスト等を行っていますか.		
	ア 変則的に実施している	イ 不定期に実施している	ウ 実施していない
回答全体	9.5	6.3	79.4
普通科	11.3	7.5	77.4
工業科	0.0	0.0	100.0
商業科	0.0	0.0	50.0
総合学科	0.0	0.0	100.0

また、「4. 10) リスニング力向上結果の経年比較を行っていますか。」という質問に対しては、「エ 実施せず」が 7 割を超えるが、「ア 英語科会で実施」しているという回答が約 1 割あり、学年担当者間や個人で実施している場合もある。

	4. 10) リスニング力向上結果の経年比較を行っていますか.			
	ア 英語科会で実施	イ 学年担当者間で実施	ウ 個人で実施	エ 実施せず
回答全体	9.5	4.8	4.8	76.2
普通科	11.3	5.7	5.7	71.7
工業科	0.0	0.0	0.0	100.0
商業科	0.0	0.0	0.0	100.0
総合学科	0.0	0.0	0.0	100.0

ここまで、高等学校におけるリスニング指導の実態とリスニングテストの実施状況を確認することができた。リスニング指導は多くの割合で実施されているが、10 分程度の限られた時間の中では、リスニング教材の解答と答え合わせが中心となる。教師による指導や関連した活動の工夫もあるが、リスニングの技術を段階的に向上させるような指導が多く行われているとは言えない。また、リスニングの目標が CAN-DO リストに記載されていない場合があり、リスニング力の伸びをチェックし、英語科会で共有するような取組もあまり行われていない。

学校での英語科教員の現状の工夫に加えて、限られた授業時間の中でリスニング指導を効果的に行い、リスニング力をテストして更なる指導の改善につなげる方策が必要と考える。

3. リスニングとリスニング指導の難しさ

この章ではリスニングの特徴、リスニングの難しさとリスニングストラテジーの必要性について論じる。

3.1. リスニングの特徴

授業内でリスニングの活動を観察すると、たいいていは次のような流れで活動が行われている。生徒はある分量の英文を聞き、その後内容理解問題の解答をする。これは、リーディング活動においても同様な流れで活動が行われている。英文を読み質問に答えなさい、というものだ。しかし、リスニングの場合、リーディングのように書かれたテキストとは違って、英文の音声がある場に留まることはなく瞬く間に消えていってしまう。文の、あるいは単語の切れ目がわからないということもある。生徒は読解とは違って、あるところで戻ったり、文を読み返したり、辞書で単語を調べたりはできない。だから、リスニングとリーディングとどちらが難しいか学生に尋ねたところ、リスニングが難しいという学生が多かった。

リスニングのプロセスは複雑で、聞き手は語、文、話者の意図へのボトムアップ処理と、状況や話者の意図を推測、文、語へのトップダウン処理を聞き手の頭の中で行っている。リスニング指導では、ボトムアップ処理とトップダウン処理をバランスよく組み合わせて指導することがよいと言われている。しかし、それ以前に問題がある。英語に触れる時間の絶対的な少なさがある。1 単位時間 50 分の授業では、リスニング指導に費やす時間が十分とれない。単語や語句レベルのリスニングならそれほど時間がかかるわけではないから、50 分の授業内で 10 分程度なら可能である。

また、他にもいくつか問題がある。生徒はリスニングをとて難しいと感じていることから、リスニング活動に消極的になる傾向がある。リスニング指導の目的は、定期テストのリスニング問題が解けるようになることだけが重要ではない。リスニングは英語コミュニケーションを円滑に図るための必須技能であり、スピーキングにおいてもリスニングがなければ相互のコミュニケーションは成立しない。

3.2. リスニングの難しさ

Underwood, M. (1989 pp.16-20) は、リスニングの難しさとして 3 点を挙げている。

- (1) 話し手の話すスピードをコントロールできない

授業内で生徒が聞き取る英語は教師の話す英語とCDから流れる音声である。教師の話す英語のスピードは生徒が速すぎると思えばスピードを落とすことができるが、CDではスピード調節ができる音響機器がなければスピードをコントロールすることはできない。

(2) 繰り返しができない

リスニングは1回限りなので、聞き手は緊張し、聴き取れない部分があれば内容理解が不十分となることがある。

(3) 聞き手の限られた語彙力

音声を聞き取ることができても、聞いた語句の意味が理解できないと内容理解が進まない。単語はよく綴りのとおり発音されることがないし、時には発音が変化してしまう。例えば、probably という語は prolly と発音されることがある。2つの[b]音とひとつの完全な音節が失われているが、ネイティブには理解可能である。これは発音に関する背景知識の問題であると言えなくもないが、語彙力はリスニングだけでなくその他の技能にも大変重要な影響がある。

リスニングにおける語彙力の問題については、(1) 生徒がその単語を知らない、(2) 生徒は音声を聞いても単語が思い浮かばない、(3) 発音が同じ単語の意味を間違えてとらえてしまう、などが考えられる。現在の学習指導要領では、中学校で1,200語、高等学校で1,800語、合計3,000語習得することになっている。この範囲内の語数で作成されたリスニングの問題でも意味・内容理解ができない場合がある。特に話し手の意図を理解する問題では語彙力不足のため困難度が増してくる。また、語彙力増強に加えて、文法力と背景知識も必要である。文法力がないと聞いた内容を正しく理解できない。背景知識があれば、内容理解がスムーズになる。例えば、海外旅行をしたことがない人が入国審査をどう受けるのかの知識がなければ、入国審査に関するトピックを理解することは困難であろう。

3.3. リスニングストラテジーの必要性

外国語学習には学習ストラテジーが有効であることはすでに知られている。多くの場合、生徒は自分のリスニング力に問題があることを認識し、ストラテジックな行動を取る必要があること、次に、教師がそのストラテジーを生徒に具体的に示し、そのストラテジーが効果があると伝えることが重要である。さらに、そのストラテジー

が繰り返し可能である必要がある。将来自学自習する場合に、身につけたストラテジーを使うことができることが望まれる。

Nunan (1999 pp.218-219) によると、内容理解に関して、具体例を示しながら、さまざまなストラテジーを次のように紹介している。

(1) Listening for gist

e.g. Is the speaker describing a vacation or a day in the office? Is the radio report about news or weather?

(2) Listening for purpose

e.g. Are the speakers making a reservation or ordering food? Is the speaker agreeing or disagreeing with the suggestion?

(3) Listening for main idea

e.g. Why is the speaker asking the man questions? Did the speaker like or dislike the movie?

(4) Listening for inference

e.g. What are the speakers implying by what they said?

(5) Listening for specific information

e.g. How much did they say the tickets cost? Where did she say the meeting was being held?

(6) Listening for phonemic distinctions

e.g. Did the speaker say first or fourth? Did the speakers say they can or can't come to the party?

(7) Listening for tone/pitch to identify the speaker's attitude

e.g. Did the speaker enjoy the wedding or not? Is the speaker surprised or not?

(8) Listening for stress

e.g. What is more important, where he bought the watch or when?

選択的リスニングや概要をつかむリスニングのような直接的なストラテジーを教えることに加えて、各レッスンの始めに目標を提示することによって学習過程を強調することができる。目標を予め述べるということは、教師が何を達成しようとしているかを学習者に気づかせるため重要なことである。目標を学習者に伝えることによ

て、学習者に何を学習したかを思い起こさせ、学習過程をモニターし評価する機会を学習者に提供することに役立つのである。

4. 効果的なリスニング指導

4.1. リスニング指導の3段階

リスニング指導は、基本的に Pre-listening activities (聞く前の準備活動) をとり入れ、理解の鍵となる語彙や背景知識を教え、While-listening activities (聞く活動) で要旨や概要を理解させることから始め、その後その要旨や概要を説明する細部の理解へ進み、Post-listening activities (リスニング後の活動) で、言語材料や内容を利用して要約や内容について自分の意見を書いたり話し合ったりさせる構成にすることが多くの研究や実践で共通認識がなされている。Pre-listening の活動では、聞くことへの意欲を高めるとともに、生徒の情緒フィルターをさげたり、話題に関連した背景知識を活性化させたり、談話の流れについて事前に情報を与えたり、内容について予測させたりする。While-listening では、タスクを与え、聞き取るべきポイントを絞らせて問題解決を行わせる。Post-listening では、理解度のチェックを行うが、生徒がどこでどうして間違えたのか適切なフィードバックを与え、聞き取った内容をもとに要約を書かせるとか自分の意見を述べたりする発展活動へと導いていく。

McCaughey (2015 p.3) は、具体的な指導例を次のように挙げている。

- Pre-listening: 1. Introduction: Teacher asks the class if they like animals. Students volunteer answers.
2. Teacher presents several riddles about animals. Students guess answers.
3. Teacher brings out a bag. Inside are stuffed animals that students can't see. Students ask questions until they determine what animals are inside.

While-listening: 4. Students receive a handout with three True/False statements. They listen to a recorded

dialogue about animals and tick True or False. They listen once.

Post-listening: 5. Students check answers.

6. Students create follow-up questions about animals. The teacher writes these on the board.

リスニング指導において上記のような3つの段階を踏み、第1段階 (Pre-listening) では、教科書で扱うレッスンの題材についての質問をし、聞くことへの意欲を高め、これから何を学ぼうとしているかの予測をさせたりする。第2段階 (While-listening) では、タスクを与え、True/False questions で聞き取るべきポイントを絞り問題解決を行う。第3段階 (Post-listening) で、理解度のチェックを行い、さらなる発展活動へと進めていく。

4.2. McCaughey が主張するリスニング活動のための秘訣

さらに、McCaughey (2015 pp.6-9) は、リスニング活動のための5つの秘訣を具体的な指導例を示しながら次のように紹介し、授業内でリスニング指導を展開するのに大いに参考となる。

1. Students do during

リスニングの具体的な目標を持つ簡単な活動を含むリスニングの練習を積み、聞き取った内容に対して積極的な反応を示すリスニング活動の指導例としてこの項目を扱っている。それを支持するものとして Ur (1984 p.4) の主張を取り上げている。

Ur (1984 p.4) は、よいタスクとは聞き取る文章の最後ではなく最中あるいは文章のある一部分と他の一部分の間に起こっている能動的なタスクであると述べている。リスニングタスクを4つ具体的に挙げているが、リスニングタスクとしてとてもよいモデルは、子どもの遊びの Simon Says であるとしている。

Simon says, "Put your hands on your head."

Simon says, "Lower your hands to your sides."

生徒はこれらの命令に体を使って従う。子どもたちは while-listening でこの活動をしている。子どもたちが取る行動は話された言葉に即座に反応していることであ

る。教師の声が音源であるので、途中で休止を入れたり、スピードを速めたり遅くしたりできる。

次に、picture dictation を挙げている。各生徒は白紙の用紙を1枚と鉛筆か色鉛筆かマーカーを持つ。教師が生徒に指示をひとつずつ書き取らせ、生徒はそれに従う。

Teacher: We are going to draw a monster. We just learned the word lopsided, right? Draw a big lopsided circle near the top of your paper. ...

Okay, give your monster two big eyes.

... Give your monster two large ears.

... Now put an earring in his left ear.

... Good. Let's give our monster very curly hair. ...

ここでは教師が机間指導をしながら、自然なポーズを置き、生徒の活動状況を観察できる。これも生徒はリスニング活動中に即座に反応していることになる。

次に、Sound-clip dictation を挙げている。リスニングに基づいたライティングあるいはディクテーションへの応用である。次のような文を教師が読み上げ、生徒は書き取る。authenticな音声としてYouTubeなどのオンラインで"movie sound clips"を使用することも可能である。

I'm gonna make him an offer he can't refuse.

--- a famous line in American film "The Godfather"

次に、Single-sentence gap fill を挙げている。1つの文を使い、弱形の言葉に注意をピンポイントで向けさせ、空欄を埋めさせる。上手く聴き取れないようなら、何度でもCDで流したり、教師が読み上げたりする。ここでは、短縮形や弱形の言葉を聞き取らせる。

(1) ___ be great if (2) ___ get it done early this year.

(1)に入る語句はIt'dで(2)に入る語句はwe couldである。多くの生徒、上級の生徒でもit'dの短縮形に気づかないが、こういった短いリスニングタスクを練習することで、自然な会話の中で自動的に聞き取ることができるようになるであろう。

2. See it

上記の4つの活動においてStudents do duringが重要となっている。生徒が体を動かしていようが、語句や文を書きしていようが、絵を描いていようが、穴埋め問題に取り組んでいようが、リスニングのテキストに即座に反応している。生徒がどのような活動をしていても、誰が正確に理解しているか、誰が理解できていないか、どのグループが速いか遅いか、誰が困難をもっているか、など教師が観察しながら生徒の理解度と進捗をリアルタイムで把握することができる。例えば、Simon Saysの活動で、教師が"Simon Says, 'Stand on one leg.'"と言う。すると片足で立っている生徒は教師の指示を理解し、そうでない生徒は理解していないことが分かる。理解していない生徒が他の生徒の動作を見てまねしたとしても教師はそれを見逃すことはない。

1) Follow the map

ある市の地図とペーパークリップを生徒に配付する。生徒はペーパークリップを自分の車に見立てる。教師が次のような指示を与える。

You are in the parking lot on Monkey Street. ...

Turn left on Javelina Street.

... Go two blocks to Giraffe Park. ...

教師は教室内を歩きながらこの指示を与える。そして生徒の車が各指示のところで正しい位置にあるかを見て取ることができる。もし生徒が難なく指示に従っているなら、さらに指示を追加し、言葉も速く発し、複雑な指示を以下のように与える。

Now make a U-turn, go two blocks, and turn right.

Do you see the Little Cat Cafe? Don't stop there; keep going until you get to Old King Mighty Food - it's a huge grocery store right before the river.

2) Seeing answers

赤と緑の紙を生徒に配付し、Yes/NoやTrue/Falseの問題の時に利用する。Yesなら緑、Noなら赤の紙を上げる。さらに、白い紙を配付し、"I'm not sure"を表示させる。生徒は直接指名されて質問に答えたり、さらに追加質問をされて緊張感が増す。そのストレスを軽

減することがこの活動で可能である。例えば、McCaughey (2015 p.8) にある次のような活動ができる。Yes/No questions で Yes なら起立するというものである。

Teacher: Are you 38 years old?
Is today Tuesday?
Am I wearing glasses?
Do you like eating snakes?
Do you like rainy weather?
Are the windows open?
Is Shanghai the capital of China?

リスニングにおいて文法の学習も可能である。例えば、次のような形で現在完了形と過去形を扱うことができる。

Who has had coffee before?
Who bought a coffee somewhere yesterday?
Who had coffee this morning?
Who hasn't had any coffee this week?
Who has tried iced coffee?
Who has never had iced coffee?
Who had iced coffee this morning?
Who didn't have iced coffee this morning?

こういった単純で簡単なタスクは特別準備を要せず、かなりな程度生徒のリスニング時間を増加させることができる。生徒はリスニング中に質問に答えることができるし教師は誰がその活動を通して理解できているかを識別することができる。

3. Keep it short

これまで述べてきた活動の音源は教師がそのつとめを果たすことができ、生徒の理解度に応じて休止を置くことが可能である。しかし、音声を録音したのを使いたいと思うこともあるが、インターネット上に無料で無限のオーディオファイルがある。

数秒から1分という短いオーディオを使うことが一番よいと考える。短いオーディオは短い活動となる。短い活動は事前の準備がほとんどいらない。ハンドアウトを作る必要もない。黒板に穴埋めを書くことができるし、書き取りをさせることもできる。短い活動は限られた授

業時間の中に上手く組み入れやすい。短いオーディオは生徒に静かにさせることが簡単であるし、聞き取りに集中させやすい。また、短い聞き取りなら生徒は退屈することもない。

Scrivener (2005 p.176) は、2分の録音教材で多くのリスニング活動をさせるのに十分であると述べている。Lewis & Hill (1985) は、英語力の低い生徒の集中時間は約20秒であると述べている。(後略)

4. Play it again

たいていの教師トレーナーやコースブック (course books) が推奨しているのは、音声を2回あるいは3回流すことである。時にはそれで十分であるが、生徒が与えられたタスクを成功させるためには生徒に必要なだけ何度でも音声を流すことがより良い。これは音声を短くすることがもうひとつの利点でもある。タスクが短ければ授業でリスニングに取られる時間がそれほど多くはならない。長い音声であると、それを分節し、短い音声に変えることができる。生徒は具体的ないくつかのタスクを行い、教師は生徒の進歩や理解度をモニターできる。

5. Change it up

多様な音源を増やすことは、教室へより多くのリスニング材料を持ち込むことを容易にする。

1) Recorded audios or teacher's voice

教師が読む音声はすばらしいオーディオの音源である。生徒に事中タスクを与え、それから内容のあるものを与える。例えば、新聞の見出し、短い詩の朗読、あるいは歌を歌うことなどである。録音された音声も、インターネットで無料で取得でき、上手く機能する。無料でダウンロードできる教材として、American English (americanenglish.state.gov.), English Teachers Everywhere (www.etseverywhere.com), BBC Learning English (www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish) で入手できる。

2) Non-authentic or authentic texts

オーセンティックでない(英語を母語としない英語学習者用に本文や音声に手が加えられている)テキストは英語学習者用に作られており、ネイティブスピーカー用に作られてはいない。Voice of America's Special

Englishの音声はノーマルスピードの3分の2のスピードで読まれている。だから、これはオーセンティックではない。教師が英文を読みディクテーションをさせる場合も、オーセンティックではない。これは自然な形でのコミュニケーションではないからである。しかし、オーセンティックでない録音された音声でも役には立つ。その音声は明確で限られた語彙であることから生徒は理解がしやすくなる。

教室外へ出ればオーセンティックなテキストは、実際の自然なコミュニケーションである。石鹸を売るラジオ広告はオーセンティックである。その目的は石鹸を売ることであり、英語を教えることではないからである。カフェにおける会話もオーセンティックである。教師は英語学力が低い生徒がいるからとかオーセンティックなテキストは難しすぎるからと言ってオーセンティックなテキストを使用することを避けてはならない。教師の役割は、リスニング活動を上手く作り、生徒にリスニングを成功させることである。

3) Scripted or unscripted?

オーセンティックなテキストには台本化されたものと即興のものがある。テレビショーやテレビ映画のダイアログはたいてい台本化されている。しかし、これらはオーセンティックと言える。それは娯楽のために作られているのであって言語学習のために作られているわけではないからである。台本化されていない言葉は即興で、毎日友人や家族と交わす会話のようなものである。これらはオーセンティックである。無料の台本化されていない有効な音声はthe English Language Listening Lab Online (ello.org)で見つけることができる。

4) Native speakers or non-native speakers

Graddol (2006 pp.82-85)によると、海外旅行をすると英語母語話者に会うよりは第2言語としての英語話者に会うことの方がよりありそうであると述べている。したがって、ネイティブではない英語の発話はネイティブの発話と同じくらいオーセンティックであると言える。生徒は多様な英語のアクセントや方言を聞く必要がある。英語母語話者の英語よりは非英語母語話者の英語をリスニング活動で聞く練習を増やすべきであると考えられる。ネイティブの英語それ自体も方言だらけである。生徒に多様な英語に触れさせ、さまざまな英語があることに気づ

かせることも大切である。

以上、McCaugheyが提唱するリスニング活動の準備から実践までを具体的な実践例を交えて紹介してきたが、聞き取るテキストを短く、多くの短いテキストを何度でも聞かせ、"think small, think short" (小さな活動で、短い時間で行うリスニング活動)を原則として授業内にリスニング活動を組み入れることが必要であることは今後のリスニング指導にとって示唆に富むものである。

4.3. リスニング指導法の提案

一方、渡部 (2016 pp.11-12) は、リスニング力はリスニングだけを練習すれば向上するというのは幻想であり、語彙、文法、読解の能力とともに伸びていくとしている。渡部 (2016) は、「英語リスニングテスト対策指導の例」のなかで、最も簡単なのは、生徒の自主的学習に任せてしまうことであること、あるいは、授業で時間を割いて音声を流し生徒に答えさせ、そして答え合わせをする模擬テスト方式であると述べている。これは、例えば、センター入試のリスニング問題を解くための対策の指導について述べていて、リスニングをスピーキング、ライティング、リーディングの4技能、さらに語彙と文法の指導を統合する指導例も提案していることは注目に値する。

- 1) 1回目のリスニングは集中して聞かせる。
- 2) 聞いた後内容を思い出してノートに書かせる。
- 3) 2回目のリスニングでノートを確認させる。必要があれば書き足す。
- 4) ペア、あるいは3名程度のグループでノートを確認させる。
- 5) 生徒の何人かに重要語(キーワード)を黒板に書かせる。口頭で言わせて教員が板書してもよい。
- 6) 再度リスニング、黒板に書き取った語句が確かに使われているかどうかを確認させる。
- 7) メモを見ながらできるだけたくさんの文を作らせる。
- 8) 作成した文をつなぎ合わせてまとめた英文を書かせる。
- 9) 音声を流し、生徒はスクリプトを見ながら聞かせる。
- 10) 再度音声を流し、生徒にはスクリプトを見ないで

音声を追って発話させる。

11) 最後にスクリプトを見ながら発話させる。

熊井 (1992 pp.21-30) は、リスニング活動を3つのプロセスに分けている。それは、Pre-listening activity, While-listening activity と Post-listening activity である。Pre-listening activity では、すぐに対話を聞かせタスクを行わせるのではなく、トピックについて教師が話したり、生徒に質問したりして、生徒がすでにもっている背景の知識を活性化させたり、タスクを行うのに必要と思われる語彙を復習・導入したり、聞き取りに対する不安を解消させたりするための活動を行うことを提案している。While-listening activity では、生徒が何を聞くことになっているか (what to listen to) を十分理解しているかどうか、生徒はテープを聴いて何をすることになっているか (what to do while listening) を十分理解しているかどうか、の2つのことを、タスクを始める前に注意しておく必要があるとしている。さらに、教師は実際にタスクをやらせる前に、ワークシートをみる時間を十分に生徒に与えておくことが大切であると述べている。また、予測をしながら聞くことにも触れている。Post-listening activity では、生徒を指名して、口頭あるいは板書させて解答を発表させることやクラス全体にフィードバックさせることが大切であること、ペア活動等を使い、問題解決を図ることも忘れてはならないとしている。

また、リスニング指導をする際に考慮すべき事柄も挙げている。「おおまかな聞き取り」と「こまかい聞き取り」の両方を指導すること、リスニングは他の技能と結びつけて指導すること、英語による学習の展開、定期試験にリスニングテストを多く取り入れることである。

英語での授業の展開はすでに全国で行われているが、定期テストで行うリスニングテストの問題をどのように作成するか、スクリプトは何をどう使うのかについての提案はされていない。

竹内 (2012 pp.87-92) は、自分で行ったリスニング指導の授業例を紹介しながら、リスニング内容について、現実社会の出来事、科学、経済、政治、文化、スポーツといった分野、対話文では生活に密着したものを用意し、補完させることが大切であるとしている。指導の実際として、事前にヒントを与えすぎないこと、音声を聞かせる際にスクリプトを見せないこと、空所補充や英問英答

においてその答の部分でCDを一度止めること、音声テキストの語彙、構文の難しさ、発話速度、設問の難しさなどの聞き取り上の配慮をまとめている。

中学校・高等学校の教師は授業だけでなくさまざまな校務をつかさどっているので大変忙しい。竹内が述べているような分野のスクリプトを探すことは彼らにとって難しい面もある。McCaugheyの例のように短い時間で、50分の授業の多くを割く必要がない範囲で生徒の身近な話題のスクリプトを収集し、同僚教師とそれらを共有し、授業で活用することが求められる。

5. まとめ

100名を超す現職英語教師へのアンケート調査結果でも出ていたが、授業内で体系的にリスニング指導を行い、生徒のリスニング力向上を図っているとは言いがたい状況がある。その原因は、これまで述べてきたように学校間でさまざまである。例えば、「時間的余裕がない」、「指導の仕方がわからない」、「忙しくて適切なリスニング教材を準備できない」などである。現在の高等学校におけるリスニング指導についてまとめると、リスニング指導は4技能の指導の中で最も軽視されているものであること、リスニング指導は時間的制約や教師の指導技術の欠如により十分な指導と評価がなされていないこと、センター入試でリスニングが組み入れられたことや学習指導要領で明示されたことによりリスニング指導の重要性について教師の意識が高まっていることなどが明らかになっている。

リスニングの効果的指導法についてはさまざまな経験に基づいた実践例、研修やワークショップで紹介された方法を試行錯誤的に実践し身につけた実践例などが学会や授業力向上研究会などで報告されているが、リスニング指導における「評価」について「総括的評価」ではなく「形成的評価」ができる指導、そして学習指導要領で述べている「情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする」リスニング力をどのように向上させたかの事例などを自校内、地区間、県内等で研究を進めていくことが大切であると考えられる。

引用文献

- Nunan, David (1999), *Second Language Teaching & Learning*, Heinle & Heinle.
- Underwood, M. (1989), *Teaching Listening*, Longman
- Graddol, D. (2006), *English Next*. British Council.
www.britishcouncil.org/learning-research-english-next.pdf
- Lewis, M., and J. Hill (1985), *Practical techniques for language teaching*. 2nd ed. Hove:Language Teaching Publications
- Scrivener, J. (2005), *Learning teaching: A guidebook for English language teachers*. 2nd ed. Oxford:Macmillan
- Ur, P. (1984), *Teaching listening comprehension*. Cambridge: CUP
- McCaughey, K. (2015), "Practical Tips for Increasing Listening Practice Time," *English Teaching Forum* Vol.53. No.1. U.S. Department of State for teachers of English
- 熊井信弘 (1992) 「これからのリスニング指導のあり方」『文教大学女子短期大学部英語英文科紀要 英米学研究』27 pp.21-30
- 竹内春樹 (2012) 「リスニング活動を重視した英文理解教育」『近畿大学工業専門学校研究紀要』第5号 pp.87-92
- 文部科学省 (2010) 『高等学校学習指導要領解説 外国語・英語編』開隆堂
- 渡部良典 (2016) 「受験指導は悪くない 建設的な受験指導のために」『ELPA Vision』No.2, pp.11-12
- 巻末資料 「リスニング指導に関する調査」

巻末資料「リスニング指導に関する調査」

日本福祉大学東海キャンパス
国際福祉開発学部
英語教育担当教員

リスニング指導に関する調査

高校における英語の授業を多く観察してきて、授業内でリスニング指導を計画的に実施している学校が少ないことに気づき、今回リスニング指導の現状把握とリスニング指導の研究を進めることになりました。つきましては、英語教員の皆さんに「リスニング指導に関する調査」にご協力いただきたく思いますようよろしくお願いいたします。

この調査における「リスニング指導」とは、正規の授業内で何らかのリスニング教材を使用して、生徒のリスニング力を向上させる指導のことをいいます。授業内で使用している教科書の本文の予習がされている状況でのリスニング指導やシャドーイング等は除きます。

お手数をおかけしますが、以下の質問にお答えください。

学校名.....高等学校
該当するところに○をつけてください。 普通科・工業科・商業科・総合学科・その他.....

1. あなたのクラスにおいてリスニング指導を行っていますか。
 - ア 授業を英語で行っているので教員や生徒同士などの英語による発話を聞き取ることで済ませている
 - イ リスニング教材を使用して毎回行っている
 - ウ リスニング教材を使用して時々行っている
 - エ リスニング教材を使用していないし、リスニング指導を全く行っていない
2. 質問1でイとウを選んだ方に質問です。
 - 1) リスニング指導はいくつのクラスで行っていますか。
指導クラス数.....
 - 2) リスニング指導はいつ行っていますか。
 - ア 授業の始め
 - イ 授業の最中
 - ウ 授業の終わり
 - エ その他.....
 - 3) リスニング指導に何分費やしていますか。
 - ア 約5分
 - イ 約10分
 - ウ 約15分
 - エ その他.....
 - 4) リスニング指導はどの科目の時間に行っていますか。(複数回答可)
 - ア コミュニケーション英語Ⅰ
 - イ コミュニケーション英語Ⅱ
 - ウ コミュニケーション英語Ⅲ
 - エ 英語表現Ⅰ
 - オ 英語表現Ⅱ
 - カ その他.....
 - 5) リスニング教材はどのようなものですか。教材のタイトルと出版社名をお書きください。

教材のタイトル.....
出版社.....

6) リスニング指導の方法を具体的にお書きください。

例：授業の最初にリスニング教材を使い10分で実施

聞き取り方を事前に指導し、何を聞き取るかを明確にして10分で実施 など

.....
.....
.....
.....
.....

3. 全員の方に質問です。

1) 定期テストにおいてリスニングテストは行っていますか。

ア 行っている イ 行っていない

4. 質問3で「ア 行っている」と回答した方に質問です。

1) どの科目の中で行っていますか。(複数回答可)

ア コミュニケーション英語 I

イ コミュニケーション英語 II

ウ コミュニケーション英語 III

エ 英語表現 I

オ 英語表現 II

カ その他

2) 年に何回実施していますか。

ア 1回 イ 2回 ウ 3回 エ 4回 オ 5回 カ その他.....

3) リスニングテストの配点はどのくらいですか。(定期テストの満点値を100とした場合)

ア 5% イ 10% ウ 15% エ 20% オ その他.....

4) リスニングテストのレベルはどのように設定していますか。(記述)

5) 各学期段階を追ってレベルを上げていますか。

ア 上げている イ 各学期とも同レベル ウ レベルを意識せず

6) リスニングテストの問題形式はどのようなものですか。(記述)

7) リスニングテストの問題文は授業で扱った教科書の文章を使用していますか。

ア 使用している イ 使用していない

8) CAN-DO リストの中にリスニング(聞き取り)についての目標が明確に書かれていますか。

ア 書かれている イ 書かれていない

9) 学期ごとにリスニング力向上チェックテスト等を行っていますか。

ア 定期的実施している イ 不定期に実施 ウ 実施していない

10) リスニング力向上結果の経年比較を行っていますか。

ア 英語科会で実施 イ 学年担当者間で実施 ウ 個人で実施 エ 実施せず

以上です。ご協力ありがとうございました。